

みやこんじょ



No.37

発行日 2014年12月1日

発行 独立行政法人国立病院機構都城病院

宮崎県都城市祝吉町5033番地1

TEL 0936-23-4111

基本
理念

高度で良質な医療を提供し、病む人々が安心して、信頼できる病院をめざします

医療制度改革の嵐

病院長 井 口 厚 司

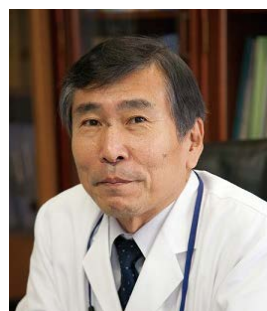
2012年2月に閣議決定された社会保障・税一体改革において、2025年の国の医療提供体制のあり方が示されました。そして、定められたプログラムに沿った社会保障制度改革が現在着々と進められています。その中で、当院にとって最も影響があると思われるのが本年6月に公布された通称「医療介護総合確保推進法」です。この法律の基本的なところは国の医療・介護・福祉に係る施策を国から都道府県へ移管し、地域に合った医療・介護のしくみを整備させようというものです。都道府県は新たに創設された基金を財源として医療・介護施設を整備し、地域包括ケアシステムを構築して医療と介護、福祉の連携強化の実現を目指していくことになります。また本年10月より始まった病床機能報告制度では、各医療機関から報告された病床機能を都道府県が集約し、国が定めたガイドラインに基づいて地域医療構想(ビジョン)を医療計画において策定、その結果で需要に合わない病床に対しては機能の変換や削減が求められることになっています。自分のところでは急性期医療を担いたいと考えていても、急性期の患者が集まってこない病院は病床単位ではありますが回復期や慢性期への変換を迫られ、空床が多く利用率の低い病床は自らの希望に関わらず協議の場を経て減床あるいは長期療養病床への転換を余儀なくされるわけです。

当院は今後も、地域がん診療連携拠点病院、周産期・小児医療の拠点として、これまでどおり急性期の診療を中心としてこの地域に貢献していかねばなりません。そのためにも地域医療支援病院として地域の医療機関との連携を深めつつ、より質の高い医療を心がけながら当院の役割をしっかりと果たし実績を積み重ねていくことが大切です。その第一歩として、今年の10月に当院は日本医療機能評価機構の病院機能評価を初めて受審しました。昨年6月のキッ

クオフから約1年半、各部署で少しずつ準備を進めてきてはいましたが前日の遅くまで資料を持って走り回っている職員も目につきました。準備したものの中には付け焼刃的なものも少なくなく、病院の質向上

という面からはまだまだ実が伴わないところもありますが、それでも受審日の最後の講評においてサバイバーからの暖かい評価の言葉もいただくことができ、職員の皆さんの努力と底力を心底感じました。

今夏は8、11、18、19号と4つの大きな台風が宮崎県に接近、あるいは横切りました。農作物にもかなりの被害が出たようでしたが、我が家でも庭に植えた皇帝ダリアの茎が添え木をしていたにも関わらず強風によって完全に倒れてしまいました。すっかり嵐に負けたと思っていたのですが、よく見ると倒れた茎の途中から再び立ち直り、現在はとてもきれいな花を咲かせています。機能評価受審の嵐が過ぎ去り、そしてこれから迫りつつある医療制度改革の嵐に対して、我々にはその難関を乗り越えることができる不屈の力があります。ともに力を合わせて立ち向かっていきましょう。



病院機能評価



病院機能評価を受審して

当院では平成26年10月8日・9日に初めての病院機能評価の審査を受けました。平成25年6月に、病院機能評価の受審が決まり、キックオフミーティング、さらにはコアメンバー会議が開催され、プロジェクトチームが編成され、取り組みを開始してから、長いようで短い1年4か月でした。

初回受審でありましたので、平成25年8月に東京で開催された病院機能表受審の説明会に参加し、新バージョンの病院機能評価で新たに加わったケアプロセス評価や、受審した施設での本審査への取り組みについての説明を聞き、準備委員会を立ち上げました。また、平成25年12月には九州医療センターで行われた病院機能評価受審前の模擬審査に参加し、当院での準備の参考としました。

病院機能表受審に向けて組織横断チーム、病棟チームを編成し、規定・マニュアル・ガイドラインの整備を行い、ポケットマニュアルを作成しました。それとともに各チームとのヒヤリングや、院内巡視を重ねて行い、患者支援のための設備の改修など院内受審体制を整備していきました。また各部署や病棟でも5S、医療安全、感染対策などへの意識向上や環境改善をはかりました。事務部では申請書類の作成、診療部・看護部ではケアプロセスの準備を同時進行していきました。

平成26年7月17日には九州医療センターの冷牟田副院長を迎え、病院機能評価受審へ向けての特別講演を行っていただき、受審の意義について職員一同が再確認でき、取り組みに加速がかりました。そして、10月8日・9日に本審査を行うとの連絡があった後の平成26年8月26日にプレ受審を受けました。

プレ受審やそれに先立って行われた院内模擬審査では、初めての受審で、病院全体で行うのも初めてということもあり、各職場でいろいろ準備してきたにもかかわらず不備な点が見つかりました。その度ごとに各部門・部署が協力し、修正・改善に取り組み、本審査を迎えました。本審査は今までの模擬受

審やプレ受審で苦労したのが信じられないほどスムーズに進み、講評でも「今回が初めての受審ですか?」といわれるほど、審査委員からお褒めの言葉をいただきました。今まで皆で病院機能評価受審に取り組んできたことが評価されたものと喜んでます。そして12月には良い結果を得られるものと信じています。

これからもこの流れを止めることなくバージョンアップし、地域の方々が安心して受けられるチーム医療を提供していきたいと考えています。

(文責 副院長 税所 幸一郎)

病院機能評価 一般病院 Ver.1.0を初めて受審して

都城病院は、初めて、病院機能評価を平成26年10月8日・9日と2日間に亘って受審しました。

平成25年6月10日に病院機能評価キックオフが行われ、1年4ヶ月後の受審でした。病院全体で取り組んだ結果、合否はまだですが、良い講評を頂きました。

ここでは、看護部がどう取り組むか、病院機能評価を受けるときの考えを看護師長会で私が述べた内容を記載します。

視点は、

- ① 患者本位の（倫理的配慮も含めて）対応となっているか
- ② 患者のみならず医療者に対しても、安全・感染対策に配慮した対応となっているか
- ③ 医療チームとしての連携及び機能が発揮できているか
- ④ 確実な連絡、実施となっているか です。

そして、一連の診療の中で、他職種がそれぞれの役割を発揮しているか、職種や部署を越えて情報を共有し連携して診療・ケアが提供されているか、個人ではなく医療チームとして意思決定がなされる仕組みがあるか、など、都城病院で提供されている日常の医療の実際、総体としての医療の質をみられます。



看護は、①患者の意向、②疾患や治療に対する理解度、③治療方針、④褥瘡リスク、⑤栄養管理の必要性、⑥家族や自宅の状況、⑦社会・経済的状況、⑧退院



支援の必要性、⑨転倒・転落のリスクやその他の安全上のリスク、⑩リハビリの必要性、⑪苦痛症状、⑫倫理的問題の把握等の情報が、きちんとキャッチでき、共有でき、伝達でき、方針としてチームで検討できているか、その中で、看護の専門性を発揮できているかが重要です。

私は、病院機能評価は、看護の評価と考えています。今までの看護をもう一度見直して、受審に望みましょうと話しました。

結果、看護部は十分に頑張ってくれたと思っています。合格を楽しみにしています。

(文責 看護部長 音成 佐代子)



病院機能評価を受審して思うこと

昨年6月に病院機能評価のキックオフがなされてから、何から取り組むとよいか模索しがらの状態でした。特にケアのプロセスが見えるための取り組みについては、実施したケアがきちんと記録されているか、記録の漏れや誤字脱字の点検からスタートして、患者の状態が変化したときの記録の学習会を行い、一番弱いとされたインフォームドコンセント・他職種を交えてのカンファレンス等の記録、説明後の患者の反応についての記録は特に力を入れて取り組みました。完璧とまではいかなくとも記録の中に患者ケアのプロセスが見える記録ができてきたときに、スタッフもさせられ感から、看護ケアへの責

任、自信のようなものが見え手応えみたいなのを感じた頃に受審に臨むことができました。取り組みの中で、対象患者を中心に医師や他職種の方と十数回情報交換する事は時間的制約等難しい事もありましたが、同じ目標に向かっていく事から楽しくも感じることができました。

今回の受審で私達医療者が患者一人一人と真剣に向かい合う事の大切を問われている事を感じ、医療者としての責任について改めて感じることができたので継続して取り組んでいきたいと思えます。

(文責 3病棟看護師長 井上 祥子)



病院機能評価を受審して

昨年、井口院長が就任されてすぐの6月、「病院機能評価受審」のキックオフが宣言されました。病院機能評価については耳にすることはありましたが実際関わったことはなく、現師長の中でも2名ほどしか経験した師長はいませんでした。そこから漠然としていたものが徐々に現実味を帯びだしてきたのは今年になってからでした。まず、自己評価をしてみるとあらゆる分野でC項目があり、院内の組織横



断チームが16グループ組織され、師長会においてもケアプロセスの勉強会が行われました。当院は3rd.Gという新たな枠組みの受審で、それはこれ

までのストラクチャー（体制）からプロセス重視の内容となり、患者中心の医療の推進を改めて問い直す機会となりました。プレ受審の前にプレプレ受審を実施、課題が見えてきたことで、本番へモチベーションが更にアップし、10月に入ると「カウントダウン」が始まりました。スタッフへの指導、各部署のラウンド、他職種との打ち合わせ、もちろん医師との確認、など師長たちは毎日看護部長室で現状報告、情報共有を行い、お互いにサポートしていきました。受審は終わりましたが、この流れを継続していくことが大切であり、今後の課題であると思えます。しかし、今はただ合格を祈るのみです。

(文責 5病棟看護師長 上原 真知子)

誓いの式を終えて



私たち68回生は誓いの式でチーフを受け取り、ナイチンゲールの灯を受け継ぐことで、改めて看護師になりたいという思いを強く抱くことができました。また、クラス全員でナイチンゲール誓詞と誓いの言葉を提唱することによって、これから看護を担っていく一員であるということ意識し、クラス一丸となつてこれからの講義や実習に臨んでいきたいと思いました。

看護師として働くうえで、幅広い知識と確かな技術を身につけ根拠ある看護を実践し、臨機応変に対応できることや、患者さんの価値観を尊重し真のニーズに応えられることはとても大切な事だと思います。そのためにわずかな変化にも気付ける洞察力や的確な判断力を学校生活の中で養っていき、多くの人と関わりを持つことでコミュニケーション能力の向上を図り、相手の思いを受け止められる豊かな感受性を養っていきたいと思います。

今はまだ看護について知らないことも多く、不安になることもあります。今回立てた誓いと抱いた思いを胸にクラス全員で切磋琢磨しつつ前に進んでいきたいと思っています。

私は今回の誓いの式で、これから様々な経験と努力を積み重ねていき、理想の看護師像に向かっていくための最初の一步を踏み出すことができました。

(文責 68回生 渡邊美里)



学校祭

今年度の学校祭は、「Heart ～伝え、伝えられる感謝の想い～」をテーマに、2日間行われました。

1日目は「豊かな人間関係を構築するためには」のテーマで、3学年で意見交換・発表を行いました。これまでのコミュニケーションを振り返り、より豊かな人間関係を構築するための改善点を見出すことで、学びを共有することができました。また、クラウンの望月美由紀さんの特別講演「笑顔は自分から、広がる笑顔」を聴いて、学びをさらに深め、患者さんに笑顔になってもらうためには、まず自分が笑顔になることが大切であるということに気付くことができました。

2日目は病院の健康フェスタと連携し、病院の皆さんと協力し、感謝の気持ちを伝えられる機会となりました。昨年度を大きく上回る200名以上の地域の方々に参加していただきました。

この2日間で、地域の方々や患者さんと医療従事者のつながりを改めて見つめなおし、感謝の気持ちを伝えることでより良い信頼関係をはぐくみ、よい医療と看護を提供するために何ができるかを考えるきっかけになりました。

ご参加いただいた皆様に、感謝いたします。

(文責 学校祭実行委員長 66回生 田中有希)

平成26年度都城病院健康フェスタの開催について

～地域とふれあい、健康の輪を広げよう!!～



今年はいろんな行事が重なり、準備する期間も短期間でしたが、都城病院職員の底力と日頃からのコミュニケーションにより無事開催することが出来ましたので、ご報告いたします。

現在、当院は平成27年11月を目途に外来診療管理棟新築工事を行っており、いつも開催しているスペースでは工事車両や道路の付け替えなどでできません。今年は、看護学校寄りのスペースを用いて開催しました。昨年は、大雨の中開催し、雨に濡れたのですが、今年は秋晴れとまではいきませんが、雨も降らず快適に行うことが出来ました。一人でも多くの来場していただきたいと思い、広報として新聞へのチラシ、アド広告欄への投稿、また、看護部長を筆頭に看護部長が近所のショッピングセンター等で夕方からピラを配布していただきました。

各部署の準備を整え、当日の朝、健康フェスタ用の幟や看板を設置し、さあフェスタの開始です。井口院長の挨拶と全員で気合いを入れ、オープニングセレモニーは、最近当院の専属バンドになりつつある、「みやこんじょ娘太鼓」

の勇ましい太鼓演奏から始まりました。ここだけの話ですが、娘太鼓といっても数年前はということです。

また、昨年から、消防署や警察署にも協力いただき、梯子車、レスキュー車、パトカー、当院の救急車など、チビッコが喜びそうな車両を展示しました。意外にもチビッコだけでなく、老若男女が間近で見物するのは珍しいのか、人気があるのには驚きです。展示車両に同行いただいた、警察署員、消防隊員の方々も親切に説明や車両への試乗も対応していただきました。各会場の計測コーナーや体験コーナーなどにも、沢山の来場を頂き来場者の方々からは来て良かったという感想を多く頂きました。

お昼には、看護学生のバザーや食事の模擬店、また、職員のシェフ（事務職員、看護師長など）が腕を振ったB級グルメに来場者が殺到し、昼過ぎには完売という売れ行きでした。なかには、特製カレーを6杯食べた方もおられました。筆者ではありません。時間が過ぎるのも早く、あっという間に平成26年度健康フェスタも終了し、職員、学生ともに笑顔で終了式をむかえることが出来ました。来年に向けての反省点もありますが、来年は新しい外来診療管理棟で、近隣の方々と触れ合いながら、健康についての情報提供や都城病院を深く知っていただきたいと思いました。



(文責 事務部長 植松 裕)

都城市合同防災訓練



日曜日の午前、集中豪雨により大規模な土砂崩れが都城市高城地区で発生し、多数の負傷者が出たという想定で11月9日都城市合同防災訓練が行われました。

医療機関として当院、都城市郡医師会病院、吉見クリニックが参加し、医師会病院DMATチームが災害現場で模擬患者の災害救護の訓練と老健施設からの搬出、吉見クリニックに重症の模擬患者1名を搬入、当院には一次トリアージ済患者がバスで大量に搬送されるという設定で朝10時にスタートしました。

当院では事務当直者が市の災害対策本部から連絡を受け、当直医師3名と院内宿舎居住の職員・看護学生及び緊急連絡により集まった職員で30名の模擬被災者を受け入れトリアージを行うというシナリオで訓練が行われました。

被災者を乗せたバスが想定より早く到着したこともあり、受入体制も充分整わないまま緊張感を持った初動対応がなされました。

まず災害対策本部を立ち上げ、赤・黄・緑のトリアージ

日曜日の午前、集中豪雨により大規模な土砂崩れが都城市高城地区で発生し、多数の負傷者が出たという想定で11月9日都

ポストを設置し、担当医師、看護師、事務職を配置。正面玄関前に到着したバスの中で医師会ナースがゲートコントロールを行いつつ、トリアージセンターで模擬患者のトリアージを行い、各トリアージポストへストレッチャー等にて搬送し、外来待合室のソファをつなげた簡易ベッドに負傷者を寝かせ、トリアージ訓練が始まりました。

それぞれのポストでは患者情報の正確な把握と記録、症状の判別・診断、緊急の検査・処置・手術の必要性が迅速に判断され、それぞれの部署への搬送、患者の状況の本部への報告と入院治療が必要な場合の病棟振分けの判断など野戦病院さながらのごった返した状況のなか約50名の職員一人ひとりが真剣に訓練に取り組みました。

訓練後の反省会では、短時間にこれほど多数の被災者の受入は当院では困難だという感想が多くありましたが、集中豪雨や台風災害、火山噴火や南海トラフ大地震等の巨大災害発生時には大量の被災者の発生が予想され、有無を言わず搬送される可能性もあることから今後それにどう対応していくかという課題も残され、合同防災訓練が終了しました。

(文責 管理課長 村尾浩一)



第5回市民フォーラム開催

第5回市民フォーラムを都城市、都城保健所および当院と共催で、平成26年10月4日 都城ウェルネス交流プラザにて開催しました。



今回のテーマは「がんと闘う女性達～明るく、きれいに、自分らしく～」をテーマにオープニング、講演、特別講演と女性で構成し企画しました。オープニングのみやこんじょ娘太鼓は、女性の太鼓演奏グループで都城を中心に祭りやイベント等で各地に元気を提供し活動されています。力強い躍動的な太鼓の演奏にはじまりました。



第1席目の講演は、原田由紀子診療看護師の「女性の肺がんについて」

診療看護師 (JNP) とはどのような役割か、医師の包括的指示の下に診療、検査、処置及び治療等の特定の医療行為をおこなうことができるなど診療看護師の役割と肺がんの画像から自覚症状、原因物質、治療薬、予防の講演を行っていただきました。

第2席目の講演は、産婦人科医師の明野慶子先生の「子宮頸がんについて」

子宮頸がんとはどんな病気か、発症数、死亡数、原因や治療法などわかりやすい説明があり、子宮頸がんの検診を受診して早期発見・早期治療を心がけることの大切さについて講演を行っていただきました。

つづいて、特別講演では、モデルの藤森香衣さんによる「乳がん向き合う～自分らしく生きていくために～」のテーマで講演がありました。藤森さんは、11歳からモデルを始め、広告を中心に活動、出演したCMは70本を超えるそうです。モデルさんだから選考した訳ではありません。2013年4月に乳がんにより右乳房を全摘出、乳房再生治療にも挑戦し、がんについての知識を広めるため、がん全般の啓発活動を行われています。講演では、友人のがんの体験から検診の大切さを教えてもらい、自分の乳がんの早期発見や手術治療ができたこと。その友人をがんで亡くし、検診を受けることの大切さ、がん予防など自分の体験を通じ広く皆さんに伝えたい気持ちから、このようながんの啓発活動をされています。自分のがん体験から揺れ動く患者の気持ちの話があり会場の皆さんは感動で涙ぐむ場面もあり、がん患者の告知から治療までのいろいろな不安な気持ちが伝わったことと思います。

がん市民フォーラムを終えて、増加するがん患者の減少や地域の皆さんの健康な生活、がんの早期発見をはじめがん患者と家族の悩みを理解し、少しでもお手伝いのできる取り組みを行っていきたいと思います。

(文責 経営企画室長 西山信二)



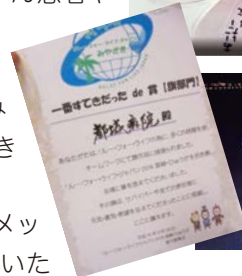
2014年リレーフォーライフに参加して

2014年9月27・28日、日向市お倉ヶ浜総合公園にて「リレー・フォー・ライフみやぎin日向」が開催され当院職員16名で参加してきました。がん征圧を目指し、がん患者や

家族、支援者らが夜通し交代で歩き、勇気と希望を分かち合うチャリティイベントです。各地域からがん患者、家族、医療関係者、地域の方々もたくさん参加されており、がん撲滅の願いを込めて会場のみなさんで励まし合い絆を深め、襷を繋ぎました。当院職員も夜通し歩き続け、1周300メートルのトラックを320周歩くことができました。

また当院のブースに足を運んでいただいた方にコスモスの花びらのメッセージカードに家族に対する想い、自分自身の想いなど自由に書いていただきました。その花びらを一つ一つボードに貼り合わせ、綺麗な満開のコスモスを咲かせることができました。皆様の温かいメッセージのおかげで『一番すてきだったde賞 (旗部門)』を受賞することができました。今回リレー・フォー・ライフに参加させていただいて、たくさんの元気と勇気を頂きました。来年も参加し、目標400周を目指して頑張りたいと思います。

(文責 医療社会事業専門員 谷川京子)



連携医療機関のご紹介

医療法人 社団 政彬会

野田産婦人科医院

院長 野田 俊一 先生



所在地	〒885-0051 宮崎県都城市蔵原町9-18
TEL・FAX	TEL 0986-24-8553 FAX 0986-24-8554
ホームページ	http://noda-clinic.jp (インターネット予約・電話予約あり) noda-clinic.jp/i (携帯電話の方は)
診療科目	産科・婦人科
病床数	16床
診療時間	平日 8:50～12:30・14:30～17:40 土曜 8:50～12:30 更年期、漢方、思春期外来 水曜日(不定期：月2-3回)カウンセリングルーム 山口昌俊先生(宮崎大学医学部附属病院病院教授)の外来
休診日	日曜・祝日(但し急患の場合はこの限りではありません)



当院は大正4年11月(1915年)に開院し、都城地域の方々にお世話になってきました。私が開業したのは平成7年です。当時は父と一緒に診療しておりましたが、父の死去に伴い、平成11年4月に院長に就任しました。

当院の特色としましては、産科を中心に特に超音波検査に力を入れています。他に漢方・更年期・思春期外来や不妊相談・母乳外来を行っています。また、マタニティービクス・ヨガ、お誕生会、骨盤ケアなどの各種イベントで妊娠中から産後の女性の心と体の健康と子育てのサポートをさせて頂いております

都城病院との関わりですが父の代から大変お世話になってきました。私は、幼少のころから、父が小さな赤ちゃんを都城病院へ搬送するのを見ておりましたので、地域医療の大切さを自然と教えられてきました。産科医療は緊急性が高く、徳永先生、永井先生、卜部先生、松澤先生に日頃から昼夜を問わず、大変お世話になっております。

今年から周産期センターが都城病院だけになりました。以前よりも、2倍の患者さんに対応して頂き、大変負担がかかっていると気にかけております。

しかし、いつも真摯に紹介患者さんを受けていただき、大変感謝しております。紹介に関しましては、

最近、地域医療連携室へ、FAX送信する紹介患者受付用紙を、簡略化して頂き非常に助かっております。これからも、地域医療連携室は大事なセクションですので、よりスムーズに連携していただくようにしていただきたいと願っております。また、担当医に直接電話が繋がるダイヤルインも重宝しています。先生方の院内の携帯番号を当院の各所に掲示し、緊急時に備えています。

未熟児など生まれた赤ちゃんの異常に関しても、横山先生はじめ小児科の先生方に、昼夜を問わず紹介患者さんを受けていただき、大変感謝しております。

今後も地域医療のため、微力ながら貢献できたらと思っています。今後ともよろしくお願いたします。



(周産期医療情報ネットワーク)

外来診療科別週間担当医当番表

独立行政法人 都城病院
国立病院機構

受付時間 8:30 ~ 11:00

【平成 26 年 12 月 1 日】

診療科名等		月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	
内科 (血液内科は紹介予約制) ^{*1}	初診	血液 肝	前田 宏一	休診			
	再診	加藤 順也	前田 宏一	前田 宏一 加藤 順一也	前田 宏一 加藤 順一也 高智 一也 徳 一也	前田 宏一 加藤 順一也	
	下部消化管内視鏡				橋本 神奈 (午後より)		
循環器内科		阿南隆一郎	阿南隆一郎	阿南隆一郎		阿南隆一郎	
呼吸器内科		後藤 康高	後藤 康高	後藤 康高	後藤 康高	後藤 康高	
呼吸器外科	初診		前川 信一		前川 信一		
	再診	手術日	前川 信一 加藤 文章	手術日	前川 信一 加藤 文章	手術日	
小児科 (午後は完全予約制)	午前	1診	榎木 仁	榎木 仁	今屋 雅之 並河 紳	並河 紳	
	午後	1診	榎木 仁	横山 晃子 (NICU退院後乳児健診)	並河 紳	横山 晃子	今屋 雅之 (カニューレ交換)
		2診	今屋 雅之 (一般乳児健診)	並河 紳	今屋 雅之 (一般乳児健診)	榎木 仁	榎木 仁
		3診		榎木 仁	榎木 仁	今屋 雅之	
外科	初診 ^{*2}	後藤 又朗 後藤 又朗 藏元 一崇	手術日	後藤 又朗 梅崎 直紀		長井 洋平 後藤 又朗 長井 洋平	
	再診				藏元 又は 長井		
整形外科	初診				吉川 教恵 菅田 耕		
	再診	税所幸一郎 菅田 耕	吉川 教恵	手術日		吉川 教恵	
リウマチ科		税所幸一郎	税所幸一郎 (再診のみ)		休診	税所幸一郎 (再診のみ)	
泌尿器科	1診		山崎 丈嗣	山崎 丈嗣	米澤 智一	山崎 丈嗣	
	2診	手術日	井口 厚司	米澤 智一	上野 貴大	米澤 智一	
皮膚科		中山 文子	中山 文子	中山 文子	中山 文子 ^{*3}	中山 文子	
産婦人科 (紹介予約制)	初診	徳永 修一	ト部 浩俊	徳永 修一	永井 義雄	ト部 浩俊	
	再診	永井 義雄	終日: 徳永 修一 午後: ト部 浩俊	永井 義雄	ト部 浩俊	徳永 修一	
耳鼻咽喉科 (難聴外来は予約制)	一般	外山 勝浩 池ノ上 あゆみ	外山 勝浩 池ノ上 あゆみ	外山 勝浩 池ノ上 あゆみ	外山 勝浩 池ノ上 あゆみ	手術日	
	難聴外来	池ノ上 あゆみ (14:00~17:00)					
放射線科	初診再診	日野 祐一	新村 耕平	日野 祐一	新村 耕平	日野 祐一	
	放射線治療	新村 耕平	日野 祐一	新村 耕平	日野 祐一	新村 耕平	
歯科口腔外科		田畑 雅士 新屋 俊明 西久保 舞	手術日	田畑 雅士 新屋 俊明 西久保 舞	田畑 雅士 新屋 俊明 西久保 舞	田畑 雅士 新屋 俊明 西久保 舞	
がんサポート外来(予約制) ^{*4}		新村 耕平	新村 耕平	新村 耕平	新村 耕平	新村 耕平	
特殊外来		マザークラス (第二・四日曜日)	フットケア外来	助産師相談室 (午後)	母乳外来	ストーマ外来 (午後)	
			リンパ浮腫外来		リンパ浮腫外来		

【その他の特殊診療】

診療科名等	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
内視鏡センター	上部消化管	気管支	上部消化管 下部消化管	上部消化管 下部消化管 (午後より宮大) 気管支	上部消化管 下部消化管
透視撮影(胃)	外科		外科		
骨塩トック(骨粗鬆症検査)【予約制(14:00以降)】		整形外科		整形外科	

- *1 医療機関の方へ: 血液内科の初診については、事前にFAX連絡票と共に、最新の血液データを送って下さい。
- *2 外科初診日(月水金)は、紹介初診の患者様の診察は10時以降になります。
- *3 皮膚科については、毎週木曜日に手術がはいることがありますので、事前にご確認をお願いします。
- *4 がんサポート外来については、事前にご連絡頂きますようお願いいたします。
- * 紹介予約制および予約制については、事前にご連絡頂きますようお願いいたします。また各診療科の診察日以外については、急患のみ対応となります。
- * セカンドオピニオンの受診については、予約制となっております。地域医療連携室までご連絡頂きますようお願いいたします。

〒885-0014 都城市祝吉町5033番地 1 TEL (0986) 23-4111 FAX【地域医療連携室】(0986) 26-1893 FAX【代表】(0986) 24-3864



独立行政法人
国立病院機構

都城病院

(地域がん診療連携拠点病院・地域周産期母子医療センター)

〒885-0014 宮崎県都城市祝吉町5033番地1

TEL/0986-23-4111(代表) FAX/0986-23-3864

E-mail/syomu-2@hosp.go.jp http://www.nho-miyakon.jp

編集発行: 広報誌委員会